

大学病院で周産期母子医療センターが運営できる条件

- 資金面でのバックアップ
 - NICU加算の増額、大学病院への小児入院医療管理料適応、周産期センター運営補助
- 周産期医療部門の独立運営
 - 産科、小児科から独立
- 独立した教員の定員を設ける
 - 周産期センター独自の教員の定員配置
- 看護師の優先配置
 - 大学病院内での傾斜配置

まとめ

- 我が国の周産期医療のレベルは高い
- しかし、近年周産期医療供給体制に問題が生じている
- その原因は、施設、病床数、スタッフの不足である
- 積極的な改善策を実施しないと崩壊一歩手前である
- 周産期医療供給体制のなかで大学病院の果たす役割は大きい

第44回日本周産期医学会学術集会シンポジウム1
周産期医療の集約化と体制の構築

新生児医療体制構築上の課題 と問題点

杏林大学小児科

杉浦正俊

2008年7月13日、パシフィコ横浜